

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し地域密着型の意義を見直し職員で話し合い地域生活での暮らしを支える理念とした。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り後理念を唱和し理念に基づいて日々実践している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	訪問時や家族会時説明している。アンケート調査にて100%の回答率だった。ホームたよりに掲載し浸透を図っている。	○ 地域の行事や会合の際事業所の実践を伝えるようにしていく。 運営推進会議の活用
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩に出かけ挨拶は率先して行い交流の機会を持っている。 おすそ分けをしたり、されたりの交流がある。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や文化祭に利用者と共に参加している。看護学校実習受け入れや幼稚園訪問したりの交流がある。	○ 運営推進会議の力をかり町内会の催し物などに積極的に参加し、地域との付き合いを深めて行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生を受け入れている。	○	いきいきサロン等参加して介護について指導や介護方法等を指導していきたい。老人会や地域の研修などで認知症ケアの学習会を開く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全員で話し合い理解し自己評価取り組み改善に向けての検討や実践につなげるようにしている。外部評価の結果はミーティングで報告し改善に向けての話し合いをし取り組んでいる。	○	評価内容を熟読し一つ一つの意味をすることを理解して実践に繋げたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者からの報告と取り組み内容・評価結果に意見要望をもらい改善に向けての取り組みを行っている。	○	推進会議を通して評価の取り組みについて意見をもらいサービスの向上につなげる努力をしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定や入退居手続きの機会に事業所訪問を声かけしている。	○	地域密着型サービス賭して積極的な連携に取り組んでいく。 市職員の研修場所として事業所を活用してもらい交流を図っていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全員で成年後見制度と地域福祉権利擁護事業について研修に参加し理解している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳を第一に念頭に置きケアしている。 高齢者虐待防止法について学んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前後は時間をとって重要事項説明書を用いて説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や不満、苦情など検討し速やかに対応し利用者、家族の立場に立った利用や本位のケアに心がけている。アンケート、意見箱を設置して取り組んでいる。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のお便りや訪問時、又は電話で報告している。金銭管理については能力に応じて対応しホーム管理は随時報告し記録も確実にしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訪問時や家族会、アンケート調で問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりをしている。重要事項説明書にて不満、苦情などの受け付け、責任者、第三者機関を明示し後家族に伝えている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ問いかけたり聞き出したりするようにしている。意見を出しやすいような雰囲気づくりをしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>余裕を持った人員を確保しており急な休みのときには交替できる体制である。緊急連絡網作成し職員交替の体制ができています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職の際きちんと利用者説明し混乱を防ぎ引継ぎを十分にとりスムーズに移行できるようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習会や研修には自己啓発のため積極的に参加している。報告も職員会議の際発表している。	○	法人内外の研修や施設見学などを実施していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北薩グループホーム連絡協議会に入会している。管理者同士による情報交換を行っている。GH連協会による研修に参加している。	○	定期的に施設交流をしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室の確保や食事会をしている。職員の健康、精神面に気を配り職員同士の人間関係を把握している。	○	職員、管理者の悩み相談が定期的に実施できたらいいと思われる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課の導入前の目標管理の説明が随時あり職員の意識向上に努めている。 職員の資格取得に向け積極的に応援している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用相談があった時は事前面談で家族や本人の思いを受け止め安心してもらうよう努めている。	○	これまでは利用までの期間が短かったので今後は面接の回数や施設見学・体験の回数を増やしていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場に立って求めている事を受け止め家族との信頼関係を築くように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況を確認し受け止め信頼関係を気づきながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族が事業所を見学してもらい又、スタッフが自宅へ訪問し馴染んでもらうようにしている。	○	利用開始まで期間があれば体験回数を増やしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという考えをスタッフ全体が共有しいろんな場面で利用者に教えてもらう場面が多い。そういう場面のセッティングや声かけをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしや出来事、気づきの情報を共有し本人と一緒に支えるため家族と一緒に又は、家族の一員との思いで支援している。	○	行事や家族会に参加してもらい和やかな雰囲気での意見交換会をしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の状況を見極めながら外出、外泊で家族と過ごす機会を勧めている。又、行事への参加を呼びかけ思い出づくりをしたり家族と本人との絆を大切にしよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイ、買い物、行事を利用し利用者と馴染みの人と合ったりする機会を作っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員全体が入居者同士の関係を把握している。皆で楽しく過ごすときは気の合う同士で過ごせる場の設定、場面を調整している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	主な退去先が入院である為面会に行ったりし関係の継続を意識している。 家族の方にも気軽に声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で声をかけ把握したり御家族から情報を得たり、情報を共有し、検討サービスに生かしている。情報を共有し検討している。言葉で表現し難い方は行動で情報を得たり家族からの情報を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅に訪問して聞き取ったり利用後も折に触れどのような生活であったか聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し行動、言動から感じ取り理解している。職員全体が利用者の全体像を把握している。スタッフ間の情報交換を密に行い一人ひとりの生活、心理面など把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員でケアプラン、モニタリングなどカンファレンスの中で意見交換を行い家族の思いや意見、要望を反映させるように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見、要望を取り入れ又は、状態の変化が生じた場合、其の都度見直しをしている。	○	3ヶ月毎全員で見直し意見交換、モニタリングを実施する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに食事、水分、排泄チェック表を作成し、暮らしの様子や言葉ばど記録し申し送りで情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院介助や、外出、外泊の支援をしている。	○	ご家族の協力を得、外出や外泊の回数を増やしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域生活を継続するための地域団体や民生委員、区長などのつながりを大切にしている。警察、消防署との繋がりを大切にしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	直接のつながりはないが成年後見制度など必要になった場合は協力し利用できるように支援していく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、通院介助の対応、又、希望に応じて対応している。診療結果は其の都度家族に伝えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が専門医であり適切な指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪看との契約に基づき健康管理や医療面での助言、対応をもらっている。看護職員を配置している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に本人への支援方法に係わる情報を医療機関に提出し、職員が見舞うようにしている。事業所での対応可能な段階で早く退院できるようアプローチしている。入院によるダメージを極力防ぐため面会に行き刺激を与えるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会、又は入居時にご家族に説明し思いを聞いている。職員で方針を確認している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い急変した場合すぐ対応していただけるよう医療機関とも連携を図り対応している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活環境、支援の内容、注意事項などの情報提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導時、耳元で確認したりさりげなく声掛けをしている。一人ひとりに合った声掛けで方言もあるが出来るだけ自尊心を傷つけないよう又、尊厳を大切に対応している。記録に対しては利用者の言動をそのまま記録している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側が決めたことを押し付けるのではなく一人ひとりの利用者が自分で決める場面作りをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの1日の過ごし方、過ごす場所は本人が決めている。1日の流れは持っているが押し付けるのではなく一人ひとりのペースで日々の暮らしを支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣は本人の意向で決めているが見守りや声掛けが必要な時に手伝っている。自己決定しにくい利用者には一緒に考えて支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないがメニューは利用者と相談して決め買い物、下ごしらえ、味付け、盛り付け、片付けなど一緒に行っており職員も一緒に食事を楽しく食事ができるよう雰囲気作りをしている。好き嫌いのある利用者には特メニューで対応している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望むものを聞き取り入れるようにしている。酒類を好む方は本人の状況を把握した上で飲酒を楽しんでもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成しパターンを把握しさりげなく声掛け誘導している。オムツを利用している方は夏場は布パンツに変えて気持ちよく過ごせるようにしている。	○	個別に昼間は布パンツ、夜のみリハビリパンツ使用し定期的にトイレ誘導をしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めてあるが希望時は何時でも入浴できる体制である。拒む方は時間経過で誘ったり誘い方を工夫したりして気持ちよく入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中活動を促し生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの表情、体調などを考慮し休憩を促したり不眠の方には湯茶、お菓子の提供をし一緒に話し相手になったりして過ごしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。役割を持ってもらい出番の場面を設定している。	○	今後も継続しご利用者の生き生きとした表情が見られるように取り組んでいく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持っている方もいる。買い物の際レジで支払ってもらったりしている。事業所が管理している人でも買い物の際支払ってもらって社会の接点を持つようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や天候に応じて日常的に散歩やドライブ又、職員の用事で外出の際一緒に同行している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事として初詣花見など本人の思いを聞き家族にも声掛けして実施		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の申し出により電話の取り次ぎをしたり年賀状、手紙、など出すための支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人とゆっくり気兼ねなく過ごしてもらえるよう居室に案内しお茶の提供。気持ちよい接遇を徹底している。外部からの訪問は大歓迎している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送りの時など自覚しない身体拘束が行われていないか点検している。(言葉の拘束)又、身体拘束に類似していないか検討している。	○	言葉の拘束が(無意識のうち)聞かれることがあるのでその都度注意していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームはオープンにしベランダ、玄関は解放している。チャイムはあるが外に出ようとされたときは止めるのではなく一緒に外出したり話をしたり柔軟な対応をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録し全員の状況を把握できるように努めている。夜間は定期的、不定期的に巡視し入居者の安全を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は何であるか、定位置にあるか、数はあるか把握しておくようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっとの提出推進し対応策、改善策を話し合っを記録し職員の共有認識を図っている。事故の場合は事故報告書、予防対策の検討、家族への説明、報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に応急処置や蘇生術の実技を行ったり勉強会の実施。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練時実施、消化器の取り扱いなど指導を受けている。協力体制については近隣の方をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な活動や外出によりリスクになる可能性が、自由な暮らしで利用者が明るくなったり行動問題を少なくしていることを説明している 行動制限しないように本人の行動を見守っている。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており少しでも変化があった場合はバイタルチェックし記録、観察、報告を十分に行い医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容、副作用を把握できるよう見やすい場所に掲示し確認するようにしている。処方変更の際は状態の確認も密にし記録、情報を共有している。		
75	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い食品、乳製品、運動を心がけて自然排便を取り組んでいる。 便秘の際は適切な下剤使用と観察を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を職員全体が認識し毎食後の口腔ケアの声かけ及び援助をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成する献立表に基づき食事を作っている。献立表は管理栄養士にチェックしてもらっている。水分、食事摂取量状況をチェック表に記入し情報を共有している。咀嚼しにくい方や義歯のない方は調理の工夫をして提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがある。インフルエンザについては利用者、家族に同意を頂き職員と共に予防接種している。ノロウイルスについては訪問時や外出時は必ず手洗い、うがいの実施、健康チェックをしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾は毎晩漂白消毒、冷蔵庫の点検、掃除、賞味消費期限のチェックを徹底している。また、食材は熱湯をかけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の花壇に季節の花を植え季節感を出している。玄関は手すりの設置、スロープになっており安心して出入りできるようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感や季節感を取り入れる工夫をしている。家具は木調で家庭に近い雰囲気作りになっている。窓を開的になっており換気も随時行っている。	○	家庭にあるものを取り入れていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下に一人のなれる又、気の合った方がくつろげるようソファが設置してありそれぞれの方が自分の落ち着いた場所を福利思いのまま過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に馴染みの物を置いてもらえるよう協力を得たり家族の写真、花、鉢、カレンダー時計、メッセージなどでその人らしく過ごせるよう部屋作りに配慮している。	○	日中はほとんどリビングで過ごされるのでリビングに使い慣れた品物を取り込んでいく。又、家庭からの持ち込みが少ないのでご家族に必要性を今一度、説明し協力してもらう。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気の必要性は全職員が認識している。温度計を各フロア、居室に設置し一人ひとりの状態に配慮して調節している。室温も定期的又は、その都度チェックし記録している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室に手摺設置しバリアフリーとなっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ゆっくりと話しかけ納得して頂き行動できるよう心がけ又、一緒に行動している。 トイレは「便所」と表示し混乱を起こさないようにしている。本人の不安となる材料等をスタッフと話し合い本人ができるだけ自立ができるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに出て自然な空気を吸ったり庭に花を植えたり畑に野菜を作ったり日常的に楽しみながら活動できる環境となっている。 外気浴やレクに利用している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

阿久根市を一望できる素晴らしい景観に立地し利用者と一緒に散歩したり、眺めたりすることにより自由な生活、心が安らぐ生活がうまれているようである。
風の丘での生活は尊厳を第一に考え強制しない、好きなことをする、自由に暮らす。職員も一緒に生活する安らぎと喜びのあるくらしを提供できるよう支援しています。